

今年の第51回国際数学オリンピック大会(IMO)は7月6日から13日までカザフスタンの首都アスタナで開かれます。旧ソ連の一員であることもあり、ビザが必要で、また成田からの直行便がないのでウィーン経由となり、世界地図で見るより時間的にはずっと遠いというのが実感です。私が理事長になってからビザが必要なのは初めてでしたので役員団、選手団のビザ準備、航空便の選定(経路地はウィーンの外にいくつかありました。)で事務局は結構大変でした。世界大会への国内予選、本選が1月11日、2月11日に行われ、予選応募者は昨年に比べJMOが81名増、JJMOが200名増で裾野が広がって来た感じがします。ただ会場数が昨年より一か所減り(その会場での受験者がいないため)北海道・東北地区の受験生がもっと増えていくことを願っています。また女子の受験者が増えない事も気になるところです。特に本選まで進む女子が少し減ってきています。JMOの予選を通過して、本選に進んだ生徒は、120名で、予選免除者を加えて124名となり内114名が参加して、全国8会場、またJJMOは108名が予選を通過して、内96名が参加して、全国7会場で本選が行われました。JMOの本選で選抜された20名、JJMOの本選で選抜された5名が春の強化合宿に進む事になりました。内JJMOからの1名は化学の最終選抜にも残っており、今年は化学の世界大会が日本で有る事も有り、化学の方を優先したため、24名が春合宿に参加しました。本選に進む女子は最近減ってきているのですが、今年は6年ぶりに春合宿に女子が1名参加しました。昨年よりJMO, JJMO両方の本選から春合宿への参加者が決まるようにしたため、本選での成績を考慮せず、春合宿での4回のコンテストの結果だけで日本代表を決める事になりました。

その結果次の6名の生徒がカザフスタン大会への日本代表に決まりました。

井上 秀太郎	灘高等学校	3年	大阪府
岸川 滉央	久留米大学附設高等学校	3年	佐賀県
北村 拓真	灘高等学校	1年	大阪府
越山 弘規	甲陽学院高等学校	2年	京都府
久良 尚任	聖光学院高等学校	3年	神奈川県
清水 元喜	灘高等学校	2年	兵庫県

今年は東京都から1名も代表がでないという現象が起こりました。これは最近ではない事です。また昨年は3年生が代表6名中5人でしたが、今年は高校3学年から代表が出る事になりました。団長は日本数学会の理事長を務められた森田康夫氏(当財団監事)にお願いすることになりました。

また今年からアジア太平洋数学オリンピック (APMO) の主催国となり、3 年間は主催する事になりました。Chair Person は当財団常務理事の伊藤雄二氏にお願いしています。この APMO は今年の 3 月 9 日にコンテストが行われ、有資格者 40 名中 26 名が参加し、次の 10 名が日本代表に選ばれました。

保坂 和宏	開成高等学校	3 年 (IMO2009 日本代表)
岸川 滉央	久留米大学附設高等学校	2 年 (IMO2009 日本代表)
峰岸 龍	静岡県立清水東高等学校	1 年
滝間 太基	筑波大学附属駒場高等学校	3 年 (IMO2009 日本代表)
野山 友幸	筑波大学附属高等学校	3 年
越山 弘規	甲陽学院高等学校	1 年
松尾 佳紀	灘高等学校	1 年
中須賀 謙吾	筑波大学附属駒場高等学校	3 年
檜垣 元秀	筑波大学附属駒場高等学校	3 年
吉田 健祐	筑波大学附属駒場高等学校	1 年

(学年は、平成 22 年 3 月現在)

アジア太平洋地域から 34 カ国の参加があり、成績表、各国の 1, 3, 7 位の答案のコピーが送られてきて採点チェックを行い、成績をつけました。郵便事情が良くない国、日本のようには行かない「締め切り期日」などで、まとめるのに結構大変でしたが 5 月末には全体のまとめが出来ました。昨年の世界大会の日本代表 6 名中 3 名が受験しなかった事も有り、日本の国別順位は残念ながら 5 位でした。さらに APMO が 3 月 9 日に行われ、3 月末に春合宿が行われて、日本代表が決まり、3 月時点での 3 年生は IMO2010 の日本代表にはなれないのですが、その生徒たちを除いて、IMO 2010 日本代表になった生徒と APMO 日本代表になった生徒の重複が少ないです。ということは未だ絶対的に強い生徒が足りないことを意味していて、これは通信添削、直前合宿などを通じて日本代表になった選手達の実力を上げていく必要があるということです。その通信添削が今進行中です。また今年も IMO への参加の時、飛行機乗機時間が長いので体調管理も大変だと思います。

今年も概算要求に関して、事業仕訳という事がマスコミににぎわせていますが、当財団も、その影響を受けました。というのも科学技術振興機構 (JST) による 5 つの科学オリンピックに対する評価があり、当財団は予選応募者数の伸び率が悪いということで、補助金が一部カットされました。応募者数を増やす事も大切ですが、数学オリンピック財団の主な役目は才能ある生徒を更に育成し、日本代表として国際大会で良い成績を取ることだと認識してきましたので、昨年国際大会で 2 位という成績がまったく考慮されない評価基準には疑問を感じました。